

# Dream Tree 通信 ~2026年2月号~

## 「本物のSLを見に行こう」

2月の校外学習として、栃木県日光市にある「下今市SL展示広場」を訪れました。当日は実際に蒸気機関車（SL）が展示されており、子どもたちはその姿を目にした瞬間から大興奮でした。目の前に現れた黒く大きな車体。煙突からは白い煙がもくもくと立ちのぼり、汽笛や機械音が響きます。写真や映像で見たことはあっても、本物の蒸気機関車を間近で見る機会はなかなかありません。



初めてSLを見た子どもたちからは、「思ったより大きい！」  
「音がすごい！」「煙が出てる！」と驚きの声が続々と聞かれました。ただ「見る」だけではなく、子どもたちは自然と疑問も抱き始めます。「どうして煙が出るんだろう？」「どんな仕組みで動くのかな？」「昔の人はこれに乗っていたの？」そんな興味を持ちながら見学を進めました。



併設されている展示館では、蒸気機関車の歴史や仕組みについて学ぶことができます。昔の写真や資料、模型などを見ながら、子どもたちはじっくりと展示を見学していました。本物を見た後だからこそ、展示の内容もより身近に感じられます。実際に見て驚き、「なぜだろう？」と疑問を持ち、その答えを探す。そんな学びの流れは、教科書だけではなかなか得られない貴重な体験です。

また、この日はSL大樹の人気キャラクターである にこまる と交流することもできました。最初は少し緊張していた子どもたちも、にこまるが手を振ってくると自然と笑顔に。記念写真を撮ったり、近くで触れ合ったりしながら楽しい時間を過ごしました。さらに、にこまると一緒に「だるまさんが転んだ」をするという思いがけない場面もありました。「動いたー！」「あと少しだったのに！」と元気な声が響き、子どもたちは夢中になって遊んでいました。年齢や学年に関係なく、一緒に笑い合う姿がとても印象的でした。



今回の校外学習では、蒸気機関車という歴史ある乗り物に触れるだけでなく、「見る・感じる・考える」という学びをたくさん経験することができました。本物との出会いは、子どもたちの好奇心を大き

く刺激します。そして、その好奇心こそが学びの原動力になります。これからも Dream Tree では、教室の中だけでは得られない体験を大切にしながら、子どもたちの「知りたい」「やってみたい」を応援していきたいと思っています。

### 「学習のつまずき、どう解消？」

「勉強がわからないから学校に行きたくない」「授業についていけなくなってしまった」そんな悩みを抱える子どもは少なくありません。学習につまずくと、「自分ではできない」「勉強は苦手だ」と感じてしまい、自信を失うことがあります。しかし、実際には能力の問題ではなく、「わからなくなったポイント」がそのままになっていることが多いのです。例えば、算数で分数が難しいと感じる場合、実はその前のかけ算や割り算に不安が残っていることがあります。国語でも、文章問題が苦手だと思っていたら、言葉の意味や読解の基礎につまずきがあることがあります。

大切なのは、「今の学年の内容を無理に進めること」ではなく、「どこで困り始めたのか」を一緒に探すことです。また、学習の方法は一つではありません。教科書を読むだけでなく、実際に体験したり、動画を見たり、人に教えてもらったりすることで理解が進む子もいます。Dream Tree では、一人ひとりのペースに合わせながら、「わかった!」「できた!」という成功体験を積み重ねることを大切にしています。小さな「できた」を積み重ねることで、自信は少しずつ育っていきます。焦らず、その子に合った学び方を見つけていくことが、つまずきを乗り越える第一歩になるのです。

### 「誰かの役に立つこと」

Dream Tree では、学習や体験活動だけでなく、地域とつながるボランティア活動にも取り組んでいます。これまでに、子育て中のお母さんを応援するための応援ボックスづくりや、地域のごみ拾い活動などを行ってきました。子どもたちにとって、ボランティア活動は単に「お手伝いをする」だけではありません。自分たちの行動が誰かの役に立つことを実感し、「ありがとう」と言ってもらえる経験は、大きな自信や自己肯定感につながります。

学校や家庭以外の場所で社会と関わり、「自分も地域の一員なんだ」と感じられることは、子どもたちの成長にとって貴重な財産です。また、こうした活動を通じて、地域の皆さまに Dream Tree の存在を知っていただく機会にもなっています。フリースクールはまだまだ認知度が高いとは言えず、「どんな場所なのかかわからない」という声をいただくことも少なくありません。

だからこそ、地域の中に出ていき、子どもたちの元気な姿や頑張る様子を見ていただくことを大切にしています。私たちは、フリースクールが地域から支えられるだけでなく、地域に貢献できる存在でもありたいと考えています。これからも子どもたちと一緒に、「誰かのためにできること」を探しながら、人とのつながりや社会との関わりを学ぶ機会を積み重ねていきたいと思っています。